

会員の広場



定年を迎えての心境

貞静学園法人本部嘱託 湯本 恭

今年、岐阜聖徳学園大学の林憲和氏の紹介で、UEJの活動に賛同し入会させていただきました。そこで、香川先生が、〈会員の広場〉にあたりし一歩への心境を寄稿してはといわれましたので、今回書かせていただきました。まずは、職歴から書いておきます。

私のルーツは1945年満州（通貨）で生まれ、千住・浅草育ちの下町っ子です。東京オリンピックの3月高校を卒業し、1年浪人し、大学に入学しました。

大学を卒業し、7年間高校教員（でも、しか教員）でした。最初は定時制工業高校（専任）で、昼間は私立女子中学高等学校の掛け持ちでした。次の年は私立女子商業高校（兼務）と4年間フル回転でした。因みに1週間多い時で40時間ぐらいの授業をしていました。最初に勤務した先輩教員が「若い時に限界を知ることだよ！」との一言で、無謀な教員であったことがわかります。生徒には、多くの迷惑を掛けたことだったと深く反省しつつも、感謝しております。その後、全日制普通高校に移りました。その3年間は、4年間生徒から学んだことを糧に、学びあうことが出来た期間でした。

「でもしか教員」であった私でしたが、いろいろな学校を経験することで、大学では学べない事柄を、教育現場で先輩教員、生徒から直接に教えられ、少しだけ教員らしくなれたのかなと思います。学校はともに学びあうところ（真剣勝負）であることを学びました。

そして縁があり大学に勤務しました。そこでは、最初に就職課（いまどきはキャリア支援課）に配置されました。7年間の教員経験ということで就職課の係長でした。高校教員のキャリアは、学生・教員との対応には少しは助かりましたが、職員・仕事に殆ど生かすことが出来ませんでした。まず困ったのは、教員はフラットな職種ですが、事務職員はそうではありません。そこで一番の失敗は、年上の職員に「さん」付けでなく「君」呼びしていたことです。自分が素人であることを忘れて、係長ぶってしまい、不興をかってしまいました。つくづくその時、おやじの口癖「らしくして、ぶるべからず」が身に凍みました。人はみんな対等・平等である事を学びました。

それからは、殆ど全ての部署の仕事をさせられました。中途採用で、はずれものではないかと思っておりましたが、何処の部署に行っても、その問題を見つけ、問題意識をもち仕事をする術を少しずつ経験する事が出来ました。これも、大学職員3年目に仕事で、FMICS（高等教育問題等研究会）に参加して学んだ成果です。同会では、現在、高等教育で取り組んでいるテーマ・課題等

学びました。そのことは、私の大学職員としての心棒になり、いまの自分があるのは、FMICSの皆様のお陰と確信しており、感謝している次第です。

それとFMICSでは、「よくきく（一生懸命）、心からホメル（十ほめて一ただす）、かならずカタル（一言以上）、皆でカンガエル（三人寄れば文殊の知恵）」を学び、多くの問題解決をしてきました。「井の中の蛙」になることなく、ここまで来れたのは、FMICSの大学教職員・異業種の方々のお陰です。

この3月末に大学事務職員をしておりました私立大を退職しました。振り返ればあっという35年間でした。大学を卒業して40数年間、学校教育現場で、「でもしか」であった自分でしたが、先生・生徒・学生・地域の人々にいろんな場面で、厳しく・優しく育てられ、大過なく過ごしてきました。大変幸せものです。

あと3年で定年を迎える年に、何か途轍もなく侘しさに襲われました。その日からは、残された時間が少ないことに気づき、遣り残した仕事の始末と後輩に大学人として身に着いたことを伝え、大学に恩返しをしなければならぬという思いに、心がかき乱されました。定年退職を迎える日まで、喉に小骨がつかえているような、何か毎日がすっきりしない日々でした。ところが、退職を迎えると、小骨のつかえがとれ、心の波が動から静になっていくのを感じました。職場は、私にとっての人間（人生）道場でした。悔いのない35年間ありがとうございました。

65歳で定年となりましたが、まだ働きたいという意欲があり、都内の私立学校に嘱託として働く場をいただきました。今まで培ってきた経験を活かして、気持ちを新たに職場のために働きたいと思えます。

また、UEJの会員になれたことを喜んでいきます。私立大学の職場では、生涯学習センターの設置にも関わったことがありますし、事務方として大学の運営にも参加した経験も大学開放の振興に活きるかと思えます。定年後に人生経験を活かし社会貢献できる集団に属することは、有難いことでもあります。第2の職場もいずれは退職があります。退職のない集団に属し、新しい人間関係もつくり、社会貢献もしていくことは生き方として大切かと思えます。UEJは、ロータリークラブの「入りて学び、出でて奉仕せよ」を実践するよい場です。

最後に、無事定年退職を迎えられたのは、私のパートナー（紀子）のお陰です。感謝してあまりありません。第二の人生の再出発ですので、皆様宜しくお願い申し上げます。

湯本 恭（ゆもと・やすし）

1945年満州生まれ、千住・浅草の下町育ち。1969年東京理科大学卒業、1969年東京都立高校教諭（数学）、1976年立正女子大学（現文教大学）職員、越谷事務局長を経て監査室長で2011年3月退職、現在貞静学園法人本部嘱託。FMICS会員、坂戸市子供会育成会会長、幼稚園父母の会会長、中・高PTA会長、後援会会長、越谷ロータリークラブ、越谷市審議委員、草加市審議委員、全日本大学開放推進機構会員。